

穂 学

平成30年度

広州日本人学校学校便り

[No. 10]

平成31年1月16(水)

発行責任者 教頭 渡邊美佐子

外は寒くても、学校・家庭はポカポカ

校長 丸本 互

新年、あけましておめでとうございます。

今年は「猪」年。脇目を振らず「猪突猛進」といきたいところですが、学校ではなかなかそうとばかりはいきません。周りをしっかりと見つめ、じっくりと考えて取り組むことが必要なことも多々あるように思います。じっくりと腰を据えて、今年1年「学校教育目標」の具現化に向けて教職員と力を合わせ取り組んでいきたいと思っております。

3学期が始まりましたが、子どもたちは、冷氣をもろともせず、校庭でドッジボールやサッカー等のボール運動に歓声をあげています。さすが、子どもは風の子。しかし、インフルエンザで欠席する児童の数が増える時期となりました。少しでも感染が広がらないことを願っています。そのために、

- ①外から帰ったら必ず手洗い、うがいをする。
- ②「おやっ」と思ったら早く寝る。
- ③人混みに出かけることは避ける。
- ④マスクをして感染を予防する。



など、インフルエンザにかからないよう予防を徹底して欲しいと思います。

さて、今回は「家庭」の果たすべき役割について考えてみたいと思います。考えてみようと思ったきっかけは、

- ・保健室で休む子の中に朝食を食べて来ない子がいる。
- ・朝から暗い顔をして登校してくる。
- ・社会のルールが乱れている。

等があげられます。さらに、「家庭の崩壊」「家庭機能の低下」という言葉を耳にすることも多くなってきました。広州日本人学校には無関係のことのように思われますが、一度考えてみるのも良いかもしれません。

家庭とはどんな役割を果たす場でしょうか。

第一に、家族がお互いに愛情を持ち、支え合い生活を営む場。

第二に、家族がお互いに安らぎを得る場。

第三に、子どもの保護と養育そして自立への教育を行う場。

第四に、命の存続のための経済生活の場です。



「学校」にとっては第三の教育機能が一番関心のある所ですが、「家庭」が第一、第二の役割を十分果たしていれば自ずとその中で育つ子どもは穏やかに成長し自立していきます。

子どもにとって「家庭」とは、成長過程で自立する基礎となるものを培い、人間として最も大事なことを身に付ける場だと思えます。また、家庭は子どもと愛情を育む場でもあります。これらのことは子どもとして（人間として）の最も大切な資質ではないでしょうか。

「親に贈る言葉」という文献の中に次の文がありました。『子どもと話したり、教えたり、言いつけたりしている時だけ子どもを教育しているのではない。親の身ぶり、他人との話し方、他人についての取り沙汰、喜んだり悲しんだりするさま、他人のもてなし方や態度、笑ったり新聞を見たりする様子の全てが、子どもにとって大きな意義を持っている。子どもは親の調子が少し変わってもそれを見抜いたり感づいたりする。親の考えの変化はことごとく見えざる道を通って子どもに届くのであって、親はその道に気づかないだけである。』

学校も家庭も子どもにとって、安心してポカポカと暮らせる場所でありたいものです。

書き初め大会

1月11日の5、6校時、中学部の1年生と2年生が、体育館で書き初めに挑戦しました。床に座って墨や筆を使いながら、文字をバランス良く書くことに、苦戦している様子でした。しかしながら書き出していくと、生徒は集中して課題に取り組み、それぞれの文字に子どもたちの個性が溢れていました。

（課題） 中学部1年 「新たな決意」 中学部2年 「夢を信じる」



【年度末における転出について】

年度末は退学者が多いため、決定次第、担任に連絡をお願いします。